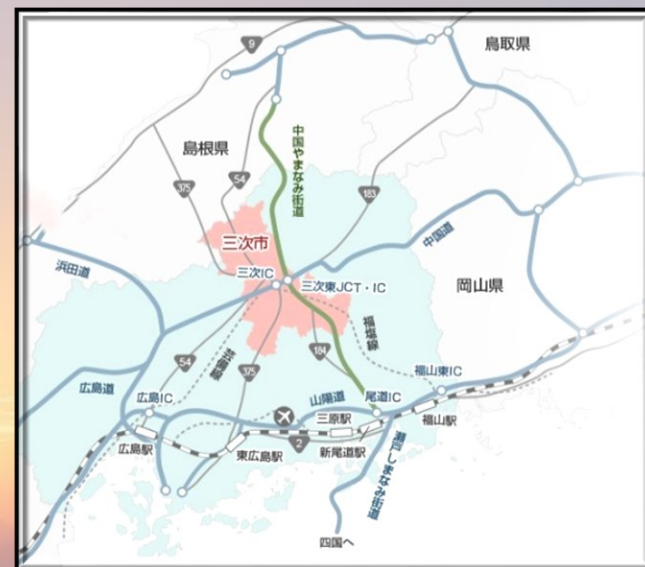


三次市の魅力ポイント

■面積 約778km² ■人口 約4.9万人 ■指定地域 過疎

- 中国地方の中心部に位置しており、古くから、山陰－山陽を結ぶ文化・経済・交通の要衝の地として栄えてきた町。
- 「三次の鵜飼」は、三次の夏の風物詩として400年以上にわたり広く愛され継承されてきており、広島県無形民俗文化財に指定されている。
- 黒の真珠こと「三次ピオーネ」や「TOMOEワイン」など、多くの特産品を「みよしブランド」としてブランド化に成功。三次ワインはG7広島サミットでも提供！
- 三本の川が合流する盆地の三次は、独特の地形によりさまざまな自然の恵みを楽しんでいる。秋から早春にかけては、三次の町をすっぽり覆う幻想的な「霧の海」を見ることができる。



三次の鵜飼



三次ワイン



三次の四季



三次市の課題・検討状況

■ 政策分野 地域公共交通

■ JR芸備線の廃線危機

→人モノ混載車両の追加等、新しい継続的な利用ニーズの確保を検討。

■ 路線バス・市民バス等、公共交通の路線維持

→市内各地に点在する「道の駅」などに路線バスの起終点を設け、起終点より先に広がる範囲はデマンドタクシー等に対応するなど、運行範囲の棲み分けを図るバスネットワークの構築を提案。

また、乗客運賃以外の新たな収入について検討。



ロゴマーク
「みよし 人よし 元気よし」

応援隊の活動報告

これまでの活動

- 月に1回程度、三次市担当者と隊員でオンラインにて打合せを実施。
- 令和6年度は、路線バスの新たな収入源の確保・地域活性化の観点から、市内で集荷された野菜等を道の駅まで運搬し販売する貨客混載の実施を提案し、11月には、実証実験を実施した。

取組の成果・今後の展望

- 実証実験において生産者、道の駅、バス会社の3者から概ね前向きな反応をいただけたことから、課題の解決策やより実効的なあり方を検討し、他のバス路線や道の駅も活用した貨客混載の横展開を図っていく。